

会議結果報告書

平成29年4月24日

会議の名称	平成29年度第4回生活支援体制整備連絡会 「集いの場を地域に広めよう（活動を紹介する方法を考える）」
開催日時	平成29年4月20日（木）14時00分～15時45分
開催場所	志木市役所3階会議室
出席者	別紙名簿のとおり（計30人）
欠席者	別紙名簿のとおり（計4人）
説明員職氏名	第1層生活支援コーディネーター 川嶋祥子（計1人）
議題	1 開会 2 生活支援体制整備活動状況報告 3 ワークショップ 「効果的な活動紹介方法」 「効果的な体験プログラム」 グループ発表 4 閉会
結果	市民フォーラムや活動体験会における、効果的な活動紹介方法と効果的な体験プログラムについて協議した。
事務局職員	別紙名簿のとおり（計8人）
審議内容の記録（審議経過、結論等）	
1 開会（14:00） 2 あいさつ（14:00～14:10）市役所人事異動のご案内 3 生活支援体制整備活動状況報告（14:10～14:30） 資料No.1に基づき、第1層生活支援コーディネーターから説明。 ・第1層協議体（H29年2月実施）「集いの場を増やすための取り組み方法」 ワークショップ結果報告 第1層・第2層共通の課題としてあげられた「集いの場」について、 どのような取り組みが必要かをワークショップ。 解決案として、次世代・中間年齢を巻き込んだ「担い手養成の工夫」、はじ	

めの一步を踏み出しやすくするための「活動PRの工夫」、空き家・店舗・幼児施設など様々なスペースを活用した「場所の工夫」、選択肢のある「活動内容の工夫」など、様々な取り組みの工夫をしていく必要があるというご意見があがった。

・第2層協議体（H28年5月～現在）「圏域の地域課題意見交換」結果報告

各圏域で2～3回程度、その圏域での活動者を中心に地域課題の意見交換。市内5圏域共通して「居場所」を充実させる必要性があげられている。

また、意見交換を重ねることにより、圏域内の協力者の掘り起こしや、住民主体の集いの場が創出された地域もあった。

創出された集いの場「サロン・ドルチェ」紹介。

→集いの場を増やすための取り組み方法であげられた「場所」「内容」の工夫については、第2層で具体化していく。

第1層では「情報PR」「担い手養成」の工夫を具体化していく。

市全域の情報PRとして「市民向けフォーラム」、担い手養成として「地域活動体験会」を企画。ワークショップのテーマとする。

3 ワークショップ「効果的な紹介方法・体験プログラム」（14:30～15:45）

資料No.2に基づき、市民フォーラム・活動体験会の企画内容を説明。

「趣味活動型」「多世代交流型」「茶話型」「体操型」「訪問型生活支援サービス」の5グループにわかれ、それぞれ、どのような紹介を行えばその活動に関心を持ってもらえるか、どのような体験プログラムを行えば活動につながるかを意見交換する。（グループ発表別紙参照）

4 閉会（16:50）

以上



ワークショップ結果（効果的な活動の紹介方法）

1 グループ「趣味活動型」

【メンバー：食生活改善推進員協議会、おんどりクラブ、いきいきサロン、ふれあいサロン、コンバート・ワン、生涯学習課、高齢者あんしん相談センターせせらぎ 計7名】



【効果的な紹介方法】

- ・体験談（例：ふれあいサロンは65歳以上の方が約15種類以上の体験に参加し、楽しんでいる、ふれあいサロンと宗岡小学校は学校の休み時間に遊びを一緒にして、世代間で交流している等）
- ・健康に関わる（健康の維持に効果的）と伝える
- ・身近な活動の際や、個々のつながり等、口コミで広げる
- ・小さなサークルで参加者・ボランティアが一緒になって作業をすることが楽しさにつながり広がる
- ・地域で知られていないサロン等、多くの活動を紹介する（広報・チラシは認知されにくい）



【効果的な体験内容】

- ・健康に関するテーマが比較的有効
- ・各サークルで発表会をして楽しさをアピールする
- ・実際のサロンで趣味活動（歌う・作る）を体験してもらう
- ・サロン同士の交流
- ・楽しさを感じられる体験
- ・間口を広く



キーワード：「健康」「口コミ」「楽しさ」「実際に体験」



2グループ「多世代交流型」

【メンバー：町内会連合会、民生・児童委員協議会、
コープみらい、志木りんくす、市民活動推進課、政策推
進課、高齢者あんしん相談センター柏の杜 計7名】



【そもそも多世代交流とは・・・】メンバーそれぞれのイメージ

- ・高齢者から教えてもらおう、若い人・子どもが習う
 - ・多世代で集まって「同じことをする場」でなくてもいいのでは？
 - ・趣味から発信して集まる場
 - ・子どもにそういう場に行ってほしい。多世代の中で体験してほしい
- ⇒多世代交流のイメージはさまざま

【多世代交流の課題】

- ・町内会でも若いお母さんを集めたこともあったが続かない
 - ・集まることができる時間帯がバラバラ（高齢者と若者、子育て世代の生活時間が遠く、一つの場を作りにくい）
 - ・祭やイベントはすでに試みられているし、多世代交流としての効果はあるか。
- ⇒一つの団体でイベントやプログラムをやるということには限界がある

【効果的な紹介方法】

- ・食を通じた集いの場「多世代食堂」＝プラットフォーム機能（情報交換・交流）
食を通じて多世代が集まる＝出会うことで支え合いの場が生まれる。



【効果的な体験方法（どんなものができるか）】

- ・共通の趣味を通じた場（将棋・囲碁）
- ・いろんな団体のプログラム発信の場（流しそうめん・焼き芋・竹の子掘り）
チラシ作りや宣伝の支え合い・情報交換・知恵の交流
- ・多世代のあそび場（郷土かるた・昔の遊び・季節ごとの誕生会）
- ・その人らしさを活かして参加する（寺子屋・じいばあ談話室・不要品交換会）

キーワード：「多世代のプラットフォーム」



食を通じた集いの場

「多世代食堂」

3グループ「茶話型」

【メンバー：食生活改善推進員協議会、サロンあざみ、スペース・わ、いろは元気サロン本町、いろは遊学館、高齢者あんしん相談センターブロン 計6名】



【効果的な紹介方法】

- ・フォーラムといっても一人だと入りにくい
↓ 入りやすくするためには…
ロコミ！友だち同士で誘ってくる
- ・市内掲示板、公共施設でのちらし設置
- ・広報、チラシを作って配る
- ・比較的若い人への周知、
運動する集いの場にちらしを置くと良いかも



比較的若い人にも

来てほしい！

【普段のサロンの紹介方法】

- ・サロンといってもただの参加だと入りづらい
↓ 入りやすくするためには…
利用者とボランティアの壁をなくす
(参加者兼お手伝いというように、役割があれば来やすい)
スタッフが聞き役に回りすぎず、話題を提供する
- ・民生委員や高齢者あんしん相談センターを通じて周知
(行ったときの様子、どんなことをしているのか聞いてみると行きやすい)

キーワード：「ロコミ」「関係団体をとおして紹介」

皆さんの
ご参加をお待ち
しております！



4 グループ「体操型」

【メンバー：町内会連合会、カッピー体操、いろは百歳体操、健康政策課、長寿応援課、高齢者あんしん相談センターあきがせ 計8名】



【効果的な紹介方法】

- ・指導者を養成して周知
- ・広報活動→活動内容の一覧、活動場所を示す地図をまとめて特別号として周知（カッピー体操、いろは百歳体操、ラジオ体操、ロコモ体操、スマイル体操、ノルディックウォーキングなどなど）
- ・ロコミ

【体操型集いの場の課題】

- ・活動場所の確保

【効果的な体験内容】

- ・体調等の実感を伝えていく
- ・楽しんでもらう
- ・体操を視覚的に訴える、体験してもらう

キーワード：「体操の一覧を見やすく」「体操の効果のアピール」



体操に参加して、
足腰が軽くなったよ！



5 グループ「訪問型生活支援サービス」

【メンバー：話し相手ボランティア語楽の会、たすけあい輪っはっは、シルバー人材センター、たんぽぽサービス、福祉課、財政課、高齢者あんしん相談センター館幸町 計7名】



【効果的な紹介方法】

- ・パンフレット
- ・ホームページ
- ・インターネット

公共の場に置く
支援の内容をしっかりと説明

- ・口コミ

良い活動を広めるよう努める
(悪評はその後に影響)

- ・ポスター
- ・ちらし

拠点の近くに貼る・配布する

- ・ケアマネ情報
- ・ポケットティッシュに挟んだ活動の案内を集いの場に配布

活動につながる機関との連携

キーワード：「支援内容をわかりやすく伝える」



在宅生活にお困りの世帯を訪問して、日常生活のお手伝いサービスをしています。

